

回 覧

*ぜひご一読下さい。

防災講話会報告（2019年[令和元年]6月）

天嶽院下自治会

日 時 : 2019年[令和元年]6月22日(土) 10時00分~12時00分
場 所 : 村岡市民の家
出席者 : 会長・役員・会員 出席者数 : 30名

講演テーマ：巨大地震に備えて～藤沢市の被害想定

講師：星氏、瀬沼氏（藤沢市 危機管理課）

<概要>

2011.3.11の東日本大震災の記録DVDによる「気仙沼市の被害状況」と「今後への教訓」の紹介と、危機管理課が作成した資料による「藤沢市での被害想定と対策」の話がありました。

<講演内容>

[被害の想定]

・主な想定被害内容：

市内は震度6強～7

津波の大きさ：最大11.5m、地震発生後12分で到達

出火：120件、消失棟：9,400棟

倒壊：28,000棟

廃棄物：619万トン（江の島の面積で高さ10mの量）

避難者数：237,900人以上、帰宅困難者：26,300人 など

・主な対策

津波対応の「避難ビル」

飲料水備蓄：52日分。非常用貯水タンク：14か所

非常トイレ：一般用組立式洋式トイレ、地下埋設式 など

[村岡地区の災害について]

・大きな災害

関東大震災

昭和57年の激甚災害指定

平成2年8月台風11号による藤沢橋落橋、同年9月台風20号による鵠沼橋落橋

平成26年10月台風18号による被害

（以上、藤沢市地域防災計画 本編5章より）

- ・今地震が発生したら？→普段から水筒などで飲料水を持ち歩くことは大切。
- ・発災から避難行動への流れを確認しておく。
- ・誰が被災者を助ける？→阪神淡路では近隣住民による救助が77%を占めた。
すぐに公共の救助は来ないので、近隣で助合うことが必要。
- ・まずは自らの命を確保する自助、そして助合う共助。公的支援には限界がある。
- ・正確な情報をラジオや防災行政無線、エリアメール等から入手すること。
防災行政無線が聞き取りにくかった場合は、“0180-994-144”に電話すれば、同じ内容を確認できます。市が推奨する防災ラジオもご利用下さい。
- ・非常持出物の準備→一人一日3リットル必要、食糧、医薬品等々。人それぞれですが、必要な物資を取捨選択し、準備しておくこと。

[風水害に関するDVD視聴]

- ・天気の急変（気象情報の入手や積乱雲の発生が見られる等の予兆）に注意すること。
- ・大雨に対する避難は、早め（例えば日没前まで）に行うことが必要。
→7月10日から、水害・土砂災害の防災情報の伝え方が変わります。
警戒レベル1：心構えを高める（気象庁が発表）
警戒レベル2：避難行動の確認（気象庁が発表）
警戒レベル3：避難に時間を要する人は避難（市町村が発令）
警戒レベル4：全員避難：安全な場所へ避難（市町村が発表）
警戒レベル5：既に災害が発生している状況（市町村が発表）

<主な質疑、意見>

- (1) 寝たきりの人等、搬送するのに必要な人数と搬送距離はどのくらいか。
→(市) 2人で1人を搬送、搬送距離は30分程度が限界なので、交代で行うことも必要。物干し竿を担架に利用する方法もあるが、最近は柔らかい物が多いので、注意が必要。
- (2) 避難所の運営委員会とはどういうものか。
→(会長) 藤が岡中学内に設置されており、自治会の自主防災会も参加。避難してきた被災者への対応を行うためのものです。
- (3) 避難所である藤が岡中学校の崖について、安全性はどうか。
→(市) 有資格者が毎年巡回点検を行っており、基準上安全である。
(会長) 2年前に杭を差しこんだ調査を市が行っており、その調査結果を確認したところ、安全基準をクリアしているとの回答があった。
- (4) 災害時、実際に人を運ぶ訓練等で実演してはどうか。
→(会長) 自治会の自主防災訓練での実施を考えたい。

以上